2024年度　事故・苦情　報告書

社会福祉法人あけぼの事業福祉会

	定員	項　目	件数	主　な　状　況
豊中あけぼのこども園	80	事故	9	○押し車を押していて転倒し前上歯打撲　○木箱で額を打ち裂傷 ○階段を下りていて転倒し右眼瞼を裂傷 ○ヒューム管から降りようとした際に他児と接触して着地、左脛骨骨折 ○他児の手が左目に当たり左角膜びらん　○箸を耳に入れられ外耳挫創 ○丸太橋を渡っている際にバランスを崩して右足捻挫 ○木の積み木の木片が刺さり右中指挫創・右中指異物残留 ○ヒューム管に登ろうとした際に手が滑り口を打ち左下BC打撲
		苦情意見	9	○子ども同士のトラブルと怪我：5件　○嘔吐処理で衣類が漂白 ○土曜日保育時の伝達の仕方の不手際　○入園直後の職員対応への不満 ○性的問題行動に関して
		検証		○受診を検討するような事例については、必ず保護者に連絡報告をすることや事故原因を看護師・チーフを中心に検証し、全体会議にて周知する。 ○子ども同士のトラブルや怪我については発達上の姿である事も伝えていきつつ、保育室の環境を整えたり各家庭の間に園が入ったりして問題解決へと進めていく。 ○土曜日保育・入園直後の対応の件は、いずれも連携施設間での苦情であったので、それぞれの保護者への対応の仕方や伝え方など２園で押さえていく。 ○性的問題行動については問題が起こった際のフローを作成し、スクールカウンセラー（あけぼの幼稚園）に助言頂きながら看護師を中心として対応の仕方を取り纏めた。
あけぼの風の森保育園	60	事故	5	○送迎時の開門時に、園庭で遊んでいた1歳児が他の保護者と共に園外に出る。 ○他児の哺乳瓶で授乳してしまう。　○中期食と後期食の誤提供があった。 ○室内玩具（キーハウス）に指を挟み出血する。 ○午睡後に両手をもち身体を起こした際に肘が抜ける。 （当該児は以前にも家庭で同様の脱臼歴があり、配慮不足の事故となる。）
		苦情意見	1	○あけぼのぽんぽここども園への引き上げ転所について。 （引き上げ転所と他園への転所申し込み時期が重なり、丁寧な説明不足が原因。）
		検証		○ヒヤリハットの検証、振り返りを行い職員全体の問題として職員会議で周知共有する。 ○トラブルについては子どもの発達についての知識を保護者の方に伝え、保育者側の丁寧な説明や対応について再度抑える。 ○今後も再発防止に向けた研修と、保護者への適切な情報共有・信頼関係構築を継続して行っていく。
あけぼのぶんぶん	45	事故	6	○降園時、母に引き渡し後にふざけて廊下や階段を走り回っていて、転倒し階段段差で口元を打つ。上唇小帯が切れ、歯が動揺。 ○水道前で転倒し、シンクの枠で顎を打つ。上唇、歯茎から出血、歯が動揺。 ○園庭で転倒し、ポンプの土台で左眉下を打つ。1.3cm程裂傷。 ○豊中あけぼのこども園の園庭で押し車の上に箱を乗せ、その上に乗っている時にバランスを崩して転倒し、後頭部を切り株の縁で打つ。７mm程裂傷。 ○保育室内でテンションが上がって、ジャンプしたり走ったりしている時に滑って転倒し、顎を打つ。下唇から出血、歯が動揺。 ○園庭で走っていてジムの前で転倒し、手摺で左眼を打つ。眼の赤みと周囲にすり傷。
		苦情意見	2	○他児に噛まれて傷がついたことに対しての説明不足 ○朝の母子分離時の他クラス担任の対応について
		検証		○お迎え後は、速やかに降園してもらう様に保護者に周知する。降園準備が長引いているようであれば、気にかけていく。 ○水道前は、床が濡れていないか確認。水道付近で遊ぶ子どもがいたら側に付くか遊びコーナーへ誘い掛ける。 ○ポンプ周りにある玩具を細目に片付ける。土台の角をガードする。 ○幼児との関わり、遊びの様子を把握し、子どもの行動予測を行っていく。 ○子どもの行動予測を行い、声掛けを行っていく。 ○保育者のポジション確認、園庭にいる人数が多すぎないか確認する。 ○保護者への状況説明の仕方の抑えを行う。 ○保護者への声掛けや対応について、又、子どもの人権・不適切保育について会議で話し合いを行い、常に意識していけるように職員同士で声を掛け合っていく。
あけぼのドロップス	60	事故	11	○顔を机にぶつけ上唇小帯を切る　○転んで玩具の金具に瞼をぶつけ裂傷 ○手を滑らせて机に口を打ち付け前歯を亜脱臼 ○他児とぶつかり前歯の亜脱臼２件　○食事中に魚の骨が喉に刺さる２件 ○運んでいた椅子を足に落とし打撲 ○転がったボールを拾おうとして転倒し、左腕の骨折 ○段差の上を歩いていて足を滑らせ顎を打ち、２針縫合 ○ハンモックに乗っている時に他児が大きく揺らし後頭部から転落。 嘔吐したため受診。
		苦情意見	2	○園外保育中に、公園の傾斜で滑って右ほほを怪我した。 ○園で胃腸炎が流行った時に保健所より検体提出の依頼があったが、保護者の承諾を取る前に園で検便を行っていた。
		検証		○園外での活動は、安全性や活動場所の適正を保育者が事前に確認した上で実施する。また、あそびのねらいや意図についても保護者に丁寧に説明し、理解が得られるように努める。 ○胃腸炎の原因を早急に特定したいと考え、本来の保護者の同意を得てから検体を取るという既定の手順を踏まずに実施した。今後は、保護者に事前に説明を行い、同意書を得てから検体を取るという既定の手順を遵守する。
あけぼのぽんぽここども園	150	事故	18	○転倒による怪我(顎、足、口、顔)７件 ○玩具・遊具が当たり顔怪我５件　○鼻の中に粘土を詰める ○園児同士で腕を引っ張り肘内障２件　○顔を引掻かれる ○園児に左目付近を蹴られ怪我　○椅子が足にあたり爪損傷
		苦情意見	3	○子どもの同士の怪我について　○子ども同士の関わりについて
		検証		○転倒による怪我は避けられないが、転んだ先で二次災害とならないように園内の危険個所の安全チェックを行うと共に、ヒヤリハットで上がった内容から設備や職員が意識できるように進めていく。 ○怪我の伝達の仕方や危険行為に関しての職員間の意識の統一を行う。 ○年長児で性の興味を抱く園児への対応の共有。職員に対しての性教育に関する知識の共有と看護師による勉強会を行う。